

バリアフリー観光

問 これまでの取り組みをどう評価し、今後、どのように取り組もうと考えているのか。

答 バリアフリー観光については、実態調査などの結果をもとに、ガイドブックやホームページを作成して情報発信の充実を図るとともに、接遇や介助に関する研修を行い、おもてなしの向上にも取り組んできた。平成26年度の「長崎がんばらんば大会」では、主要な施設でバリアフリー観光のガイドブックを配布し、多くの皆様に利用していただいた。

今後も、全ての人に安全で安心な長崎観光を楽しんでいただけるよう、関係機関などと連携し、バリアフリー観光の充実に努めたい。

創生自民

地域ぐるみの

食肉処理加工施設の設置

問 捕獲した猪でまちおこしをするため、捕獲隊のいる琴海尾戸地区に食肉処理加工施設を設置したいが、その支援について伺いたい。

答 市としても捕獲した猪を食肉処理加工し、新たな地域資源として活用することは、地域振興の一助になると考えている。現在、有害鳥獣の食肉利用

の取り組みとしては、あぐりの丘内に食肉処理加工施設を設置し、各種イベントでの試食会や直売所での販売などを行っている。新たに地域で取り組み



▲あぐりの丘で作られている製品

食肉処理加工施設の設置については、国の指針や関係法令の遵守など、解決すべき課題はあるが、関係部局とも連携をしながら実施に向けて支援していききたい。

新市庁舎の建設

問 新市庁舎を、県庁舎跡地に建替える考えはないのか。また、自分達だけで考えるのではなく、もっと市民の声を聴いてほしい。

答 市庁舎の建て替え場所については、これまで市民懇話会や市民会議を開催し、市民の皆さんのご意見もいただきながら、都心部全体への人の回遊性の維持など、まちづくりの視点を総合的に勘案し決定してきた経緯があり、県庁舎跡地に変更する考えはない。

市役所は公会堂跡地でしっかりと機能を果たしながら、県庁舎跡地をどううまく活用していくかということも、これから市民の皆様とともに考えていきたい。

日本共産党

公立保育所の民間移譲

問 香焼・三和地区の保育所の民間移譲については、保護者から多くの不安の声があがっている。保護者や地域の方々の合意なくして進めるべきでないと考えますが、市の見解を伺いたい。

答 平成18年度に設置された検討懇話会の報告を踏まえ、香焼・三和地区の保育所は民間移譲する方針としている。

民間移譲を行うにあたり、園児や保護者等にとってよりよい形となるよう、現在、意見交換会を行っている。移譲先は社会福祉法人等の公共性の高い法人に限定して公募し、運営基準や保育内容等を審査した上で選定する予定のため、保育の質も確保され、市立との保育格差は生じないと考える。今後も民間移譲に係る手続きについては丁寧に説明しながら進めていきたい。

新入学用品費の前倒し支給

問 入学支度金の支給が入学後の7月と遅く、一時的に保護者負担となっており。入学前に支給すべきではないか。

答 本市では、新入生の新入学用品費を含む就学援助について、毎年度、入学以降に申請を受け付けている。受け付け後は、世帯の状況等を確認し、審査に適用される前年の所得金額が確定



する6月に認定し、7月から支給している。しかしながら、新入学用品費の支給はできるだけ早いことが望ましいため、他都市の実施状況を参考に、審査方法や早期支給について研究していききたい。

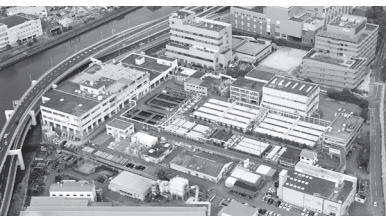
チーム2020

中部下水処理場の跡地活用

問 茂里町スタジアム建設要望地の中部下水処理場について、廃止後の活用はどのように考えているのか。また、跡地活用についての検討委員会を立ち上げる考えはないのか。

答 中部下水処理場は、平成35年度末で機能を停止する予定としている。上下水道事業用地として利用する予定はないが、平地が乏しい長崎市にとって貴重な土地であるため、幅広く市民の声も聞きながら、市全体で多方面にわたる有効活用策を検討していくことが重要であると考えている。

しかしながら、隣接するクリーンセンターの活用など、整理・解決すべき諸課題があるため、検討委員会の立ち上げは、時期尚早と考えている。



▲中部下水処理場

しかしながら、隣接するクリーンセンターの活用など、整理・解決すべき諸課題があるため、検討委員会の立ち上げは、時期尚早と考えている。